Ｎｏ９：日本の魅力伝える「秋祭」

月曜日の午後 11 時、拍手が鳴りやまなかった。一般公開前に香港島のアドミラリティ（金鐘）の映画館で行われた映画「国宝」の試写会上映後の光景だ。香港の方からの招待で参加したが、日本人は私１人。事前に場内で紹介され、日本の代表のように見られるのはとても落ち着かなかった。だが、「改めて日本に興味を持った」「歌舞伎を生で見たい」と声をかけられ、“にわか代表”でも誇らしい気持ちになった。

香港では映画「鬼滅の刃」の大ヒットや「進撃の巨人」の原画展の開催など、日本の漫画・アニメ人気は根強い。それをきっかけに、日本語を覚えたという人も少なくない。しかし、今回感じたのは、それにとどまらない日本文化、魅力に対する熱意だ。

こうした魅力をいっそう伝えるため、領事館などを中心に行う取り組みが「日本秋祭 in 香港」だ。10 月～11 月に日本関連イベントを集中的に実施し、一体的な PR を行っている。

この取り組みは今年で 10 周年を迎え、新たに香港ジョッキークラブとの連携イベントも催された。競馬開催日の夜、ステージ上では日本のヒット曲が演奏され、屋台では浴衣姿のスタッフが日本食を提供。来場者は日本のビール片手に大盛り上がり。言葉は通じなくても目的は同じ。終盤には香港人も日本人も肩を組み、レースの行方に一喜一憂した。

【「日本秋祭ｉｎ香港」と連携したＨａｐｐｙ　Ｖａｌｌｅｙ競馬場の様子＝11 月 12 日、香港・銅鑼湾（コーズウェイベイ）】

最大の催しは 11 月 15、16 日に行われた「踊ろう！秋祭り」。公園にやぐらを模したステージを設置し、自治体や日系飲食店が屋台を出店した。本県も日本酒の提供や観光 PR を通して、来場者に魅力を伝えた。

プライベートで訪れたバイヤーや飲食店関係者から、具体的な引き合いを得る場面もあり、交流はビジネスにもつながっていると実感した。佳境に入ると参加者が一緒にみこしを担ぎ、盆踊りを楽しむ姿も見られた。

育ってきた環境や言葉が違っても、一緒に映画を見て、競馬で負けて、踊って、泣いて笑った体験は確かなものだ。ときの情勢に翻弄されても、このような市井の交流を欠かさず、少しでも香港と日本をつなぐ役目を果たしていきたい。

11 月 26 日香港北部・新界地区大埔（だいほ）で発生した高層住宅火災により、犠牲となられた方々に心から哀悼の意を表するとともに、御遺族に対し謹んでお悔やみ申し上げます。また被害に遭われた方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

県香港事務所長　鈴木高明